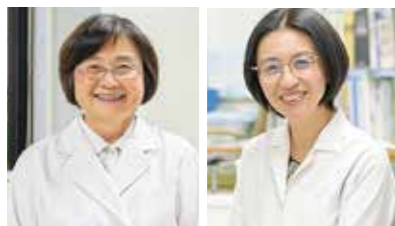


# 連携医療機関のご紹介

今回は、広島市東区戸坂の『石田医院』  
木村 友希 先生です。



石田秀子理事長 木村友希院長

## 医療法人 石田医院

〒732-0016  
広島市東区戸坂出江2丁目10-31  
電話 / 082-229-0118  
院長 / 木村 友希  
診療科目 / 内科、消化器内科、  
胃腸科、肝臓内科



外観

### ○貴院の歩み、院長に就任された経緯について教えてください。

祖父が、ビルマへの出征から戻った1947年に吉田医院としてこの地に開業したのが始まりです。母の石田秀子（現理事長）が継承して現在の石田医院となり、父も消化器内科医師で、地域医療に従事する二人の背中を見て育ちました。

### ○医院の特徴を教えてください。

古くから戸坂に根付いた医院として、地域の方の診療に応じてきました。2003年からは、デイサービスセンター「青葉」を併設し、地域密着型通所介護・一日型デイサービスを提供し、医療・介護両面の、総合的な視点で地域の方に関わっていただける存在でありたいと考えています。

### ○診療のうえで、大切にされていることを教えてください。

肝臓病診療や内視鏡治療を専門としつつも、生活習慣病を始めとしてさまざまな病気に対応できるかかりつけ医である、ということが大切と考えています。一人の方が、複数の疾患をお持ちであることも珍しくないからです。診療所ですべきこと、できることを大切にしながら、基幹病院など専門病院へ紹介するタイミングを逃さないことも必要と考えます。しかるべきときにご紹介し、またその治療が終わったら、しかるべき時に

帰ってきていただくというイメージです。戸坂は生まれ育ったところで、思い出深い、穏やかな町並みです。ただ、診療をする視点からすると、特に高齢の方には、住みづらい面もあるかもしれません。例えば坂が多く、転倒して怪我をする方もよくお見受けします。歩行が難しくなるなど、医院まで来ることが難しくなった方には、理事長を中心に訪問診療を行っています。末期がんで、最後まで自宅で過ごしたい、という方のサポートにも応じています。基幹病院に紹介するほど重症ではないけれど、外科など私どもとは違う診療科を頼るべき患者さんには、町内の他の医院と連携を取ることもあります。

### ○県病院はどのようなところですか？

内視鏡内科での ERCP など、受け入れのお願いにスムーズに応じていただいているという印象です。広電バスで一本で行けるので、実際の距離よりも、患者さんも便利と思われる場合もあります。広島駅構内の改修で、市電へのアクセスも良くなりましたね。

#### 【取材後記】

代々戸坂に根ざした医院として、介護サービスも手掛けられるなど、時代に合わせたサービスを提供しておられると感じました。理事長、院長とも大変穏やかな語り口で、多くのことをお教いただきました。今後とも当院との連携を宜しくお願いいたします。

# もみじ



県立広島病院 ☎082-254-1818(代)  
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

第206号  
2026.4.1  
発行



理念：患者さんの権利を尊重し、県民に信頼される病院をめざします。

産婦人科



## 婦人科における ロボット支援手術

～体への負担が少ない新しい手術のかたち～



産婦人科 部長  
野坂 豪

### ◆ロボット手術について

近年、医療技術の進歩と、病気に対する治療の知見の蓄積により、体への負担をできるだけ少なくする「低侵襲手術」がすすめられています。そのうち手術分野で注目されるのが**ロボット支援腹腔鏡下手術（ロボット手術）**です。

婦人科領域では、子宮の病気を中心にロボットを活用した手術が行われるようになってきました。代表的な手術支援ロボットとして世界的に広く使用されており、当院でも使用しているのが**ダビンチ手術システム（da Vinci Surgical System）**です。

この手術では、医師がロボットを遠隔操作しながら手術を行います。ロボットが自動で手術するわけではなく、すべて医師の操作によって進められます。ロボットアームは人の手よりも細かい動きが可能で、精密な手術を支援する役割を担っています。

### ◆ロボット手術の仕組み

手術は主に次の3つの装置で構成されています。

#### 1 サージョンコンソール



医師が座って操作する装置で、患者部を立体的な3D画像で確認しながらロボットを操作します。

#### 2 ロボットアーム（パシエントカート）



手術器具が取り付けられたロボットの腕で、医師の操作に合わせて正確に動きます。

#### 3 高解像度3Dカメラ



手術部位を拡大し、細かな血管や組織まで確認することができます。

ロボットは手ぶれを補正する機能を持ち、狭い場所でも繊細な動きが可能です。これにより、従来の手術よりも精密な操作が可能になります。

### ◆患者さんにとってのメリット

ロボット支援手術には、次のような利点があります。

- 傷が小さい
- 回復が早い
- 手術後の痛みが軽い
- 入院期間が短くなる

これらの特徴から、患者さんの身体的負担を軽減できる手術方法として期待されています。



## 県立広島病院からのお知らせ

### 4月のがんサロン

開催日時 令和8年 4月15日(水) 14:00～15:00  
場所 新東棟2階 研修室  
内容 がん患者さん・ご家族のおしゃべり会  
がんピアサポーターや医療者を交えての交流会です  
対象 悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族  
問合せ先 当院での受診歴は問いません  
がん相談支援センター  
☎082-256-3561

電話か、窓口、  
二次元コードで  
お申し込みください



### 病院ボランティア 表彰式・感謝状贈呈式

当院では患者さんが快適な環境で安心して治療を受けていただけるよう、院内の案内等、様々な場面で病院ボランティアの皆さんにお世話になっています。令和8年3月5日(木)、継続的に病院ボランティア活動にご尽力いただいた病院ボランティアの皆さんに、板本院長から表彰及び感謝状の贈呈式がありました。病院ボランティア活動は、特別な資格をお持ちでなくても、患者さんのお役に立ちたい、と考えている方でしたらどなたでもできます。お気軽にお問合せください。



地域連携室 ☎082-256-3562

## ◆従来手術との比較 ※患者さんの状態により個人差があります

	従来の開腹手術	腹腔鏡・ロボット手術
傷	大きい	小さい
手術時間	標準	同等～ややかかる
術後の痛み	強いことが多い	軽いことが多い
回復	時間がかかることもある	早い

## ◆婦人科で行われる主なロボット手術

現在、当院産婦人科では、次のような疾患に対してロボット支援手術を行っています。

**子宮筋腫、子宮腺筋症、子宮頸部異形成、子宮内膜増殖症、子宮脱** など今後、子宮体がんや子宮頸癌などの悪性腫瘍の手術にも適用となる見込みです。

ただし、すべての患者さんがロボット手術の対象になるわけではありません。病気の種類や進行度、体の状態などを総合的に判断し、医師と相談しながら最適な治療方法を決定します。



## ◆安全に配慮した手術体制

ロボット手術は、専門的な研修を受けて資格を持つ医師がチームで行います。また、麻酔科医や看護師、臨床工学技士など多職種が連携し、安全性に十分配慮した体制で手術を行っています。

万が一の状況に備え、必要に応じて従来の手術へ切り替える体制も整えています。

## ◆患者さんに安心して治療を受けていただくために

医療技術は日々進歩しており、患者さんの体への負担をできるだけ少なくする治療が広がっています。ロボット支援手術もその一つです。

当院では、患者さん一人ひとりの病状や希望を大切にしながら、適切な治療方法を提案しています。気になることがありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

## 患者さんからのご意見

## フルネーム及び生年月日の確認について

検査や受付の度に何度も名前と生年月日を求められることに負担を感じる。本人確認は医師、看護師、技師など医療側が責任を持って行うべきである。医療は100%の正確性を求められる職業であり「人間だから間違える」という説明では納得しがたい。言語障害や、聴覚障害など口頭で答えることが難しい患者への配慮も欠けている。

検査や受付の際に何度も名前と生年月日の確認を行うことについて負担に感じられたとのご意見をありがとうございます。当院では診療、検査、処置を安全に行うために、ご本人に名乗っていただく「本人確認」を必須としています。これは国の医療安全指針に基づく取り組みであり、同姓同名の患者さんとの誤認や、医療に関する情報の取り違えを防ぐ為に必要な行為となります。また、口頭での確認が難しい患者さんには、ご家族の方や医療者による複数名での確認など、状況に応じた方法で対応しております。繰り返しの確認が患者さんの負担になることについては、真摯に受け止めております。安全な医療提供のため、引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



## 心理療法士からのメッセージ

## ♥ 臨床心理室とは

臨床心理室は「患者サービスの質の向上」を目的に2016年に設置された、院内でも比較的新しい部署です。患者さんやご家族の精神的な面からのサポートを担っています。今年度から1名の新人を迎え、4名の心理療法士で業務にあたっています。



## ♥ 臨床心理室の業務

臨床心理室の主な業務はカウンセリング業務と検査業務に分けられ、精神神経科に通院中の患者さんのカウンセリングや心理検査、新生児科や小児科の発達検査、その他の診療科や病棟に入院中の患者さんやご家族との心理相談を行っています。当院に通院中の方やそのご家族であればどなたでも利用していただけます。(臨床心理室の利用をご希望の際は、主治医や看護師にまずはご相談ください)

院内の精神科リエゾンチームや緩和ケアチーム、AYA がん支援チームなどにも参加しており、多職種と連携しながら患者さんやご家族に対する支援を行っています。

## ♥ メッセージ

病気になることや大きな怪我をすることは人にとって突然の出来事であり、衝撃も大きな体験です。また、これまでの健康な自分、健康な家族、日常生活、これからの予定や将来の計画といったさまざまな大切なものを失う体験にもなり得ます。人はそうした予期せぬ突然の出来事に遭遇した時や大切なものを失くした時、思いもよらなかった反応が出てしまうことがあります。いつもの自分じゃない感じがする、こんなふうになってしまう自分はどこかおかしいのではないかと不安な気持ちも強くなるかもしれません。たとえばそういった時に、どうして自分の心にこんなことが起きているのか、起きていることをどういうふうにつまみ、どう対処していけばいいのか、といったことを一緒に整理し、一緒に考えていくというのが、臨床心理室の心理療法士のひとつの役割です。心の中で起きていることは目に見えませんが、見えないからこそ不安にもなります。ですが、どういことが起きているかを理解すれば、分からない不安は少し和らいだりもします。

そのほかにもさまざまな心の悩みに対応しておりますので、お困りの際はぜひご利用ください。

## 臨床心理室



臨床心理室の事務所です。患者さんとの面談は面接室や病棟で行います。ここではスタッフのミーティングをしたり、検査の所見を作成したりしています。

## 面接室



患者さんやご家族とお話をする際に使用している面接室のひとつです。基本的には1回約1時間という時間をもってゆっくりとお話をうかがっています。